

「人口減少社会の中で大分が生き残る方法」④

少子高齢化、人口減少は、働く人々の価値を否応無く高める。生産性が低く、給与の低い産業や職場からは容赦無く人が去る。農林水産業はもつと生産性の高い方法に早急に変革しなければ、人を確保出来ない。三大都市圏から遠く、中山間の非効率農地や交通の不利な農漁村は存続が難しいだろう。大分県内にはそのような農漁村が多いが、大分の水産養殖業は国内競争力が高く、基幹産業となっており、今後も伸ばせる産業分野だ。日本のホタテは国際競争力も高く、世界占拠率も高い。今後、大分県の水産養殖業が国際競争力を高めることが期待される。また三大都市圏から遠いとしても、海外向けのビジネスなら、都市近郊農家と互角に戦える。彼等が大都市消費に甘んじている間に海外市場を開拓しておけば、創業利益

を取れる。

飲食、宿泊、タクシー、宅配、理美容、リラクゼーション、介護、建設、建築等の分野も低賃金で人材確保が難しい。またこれらは人口に依じた仕事量のため、人口減少都市では仕事量も減少していくが、生活必需サービスであり、労働生産性を高める事が困難な仕事であるため、職場は維持され、待遇は向上する。また、差別化が難しい業種では合併、淘汰、寡占化が進む。宿泊、タクシー、介護、建設等の業種は寡占化が進むだろう。

だ。

高度情報ネットワーク・ユビキタスコンピューティング社会の到来は、最も多くの高収入の人々の職場を奪うだろう。金融業は恐らくその最も大きな犠牲者となる。プログラマーの仕事も人工知能

が代替すると言われており、その時代の到来はかなり早いと思われる。在来マスメディアも、通信インフラ業と映像製作業と個人ジャーナリスト業に分解されてしまうかもしれない。次世代マスメディアの主力はSNS等のネットワークプラットフォームであり、彼等が広告収入を寡占し、分配するだろう。だが大分にはこのような高収入サービス業はあまり多くない。

まう。外国の観光客に対して完全に的外れで痛々しい観光マーケティングを行なっているようだが、大分は温泉推しですが、これは間違っていない。大分は快適な「気候」と、温泉始め多様な美しい「自然」と、宇佐神宮や六郷満山等の古代の「文化」と、豊後水道や多様な農地が生む、美味なる「食事」もある。また別府温泉は油屋熊八による全世界マーケティングの「経験」も持つ。別府に五つ星ホテルも来るとか。観光立県を目指し世界の叡智と力を集めれば、もう一度世界の中で輝けるはずだ。

大分の伸びしろが最も大きいのは観光だ。日本の観光は観光立国の国々に比べ、感覚も考え方も戦略も実際も、数十年遅れているのと同様に、今も明後日の方向に向かって進んでる部分もあるようだ。観光の4大要素は、「気候」「自然」「文化」「食事」だが、どうも日本人は我田引水というか、井の中の蛙というか、自分の得意自慢をしてし

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください!お待ちしております。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net

